

種の概要

房総半島から九州に分布。内湾湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底、砂礫底に殻頂を真下にして突き刺さったように生息する。特にアマモ場に多く見られる。殻長400mmに達する大型種。タイラギ(リシケタイラギ)(貝類Cランク)に似るが、はるかに細長く、殻頂は鋭く尖る。殻は薄く、膨らみは弱い。殻表は緑色がかった黄褐色で、放射肋がある。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△	○			○

県内分布

洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

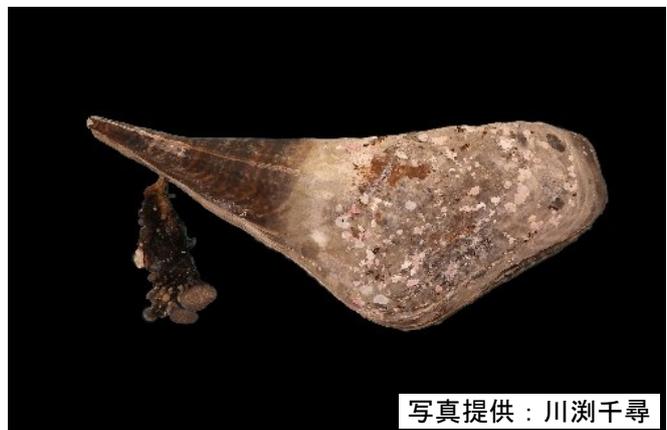
新規追加種。干潟で生きた個体が確認できるのが、淡路島中部の内湾に面した砂泥干潟である。最干潮時、砂泥底に殻頂を下にして突き刺さったように生息しているのが散見されるが、干潟では生息数は極めて少なく、主な生息地は潮下帯にある。日本海に面した新温泉町の沿岸にも分布するが、こちらも水深が数m以深の潮下帯に生息している。

保護上の留意点

干潟では少数のみが確認されている。直下の海底では生息がより多いことから、内湾の砂泥干潟の延長域を含めての保護が必要。



写真提供：川渕千尋



写真提供：川渕千尋

【執筆者】 川渕千尋